



作文1部

農林水産大臣賞

のうりん すいさん だいじんしょう

おこめがくれているしあわせな時間

宮崎県宮崎市立西池小学校二年

小山 紘誠

「いったただきまーす。」

あつあつのごはんにつめたいひやしるをかけて、うめぼしをのせて、ぼくはズズつと音を出しながらひやしるを食べます。夏に食べるみやざき名ぶつのひやしるはさい高です。

だけど、ぼくは、おかあさんとかいものに行った時、おこめがあと二ふくろしかのこっていないのを見ました。おかあさんもびっくりして、あわててかっぺしました。

夏休みに、ぼくがしんせきのおじちゃんという時にでんわがかかってきました。おじちゃんはおこめをそだてているので、近くの田んぼの人に水を出してほしいとおねがいされたそうです。おじちゃんは、ぼくに「今年もあつくて田んぼの水がかれるし、水を入れて

もすぐにおゆみたいになるから、時間をきめて、水を出しっぱなしにしとかんといかんとよ。出かけられんし、かんりするのが大へんよ。それに、おじちゃんは今六十九才やろ。十年後は、七十九才。もうこんなしごとはできんかもしれんわ。のうぎようをする人はへっているし、もつともつと気おんは上がっていくやろうし、いつかおこめが食べられない時だいぐるかもしれんね。」

と話してくれました。その話を聞いてぼくは、二ふくろしかないおこめを見た時と同じ気もちになりました。ぼくの大すきなひやしるも、かつどんも、カレーも、家ぞくで食べる手まきずしも、いつもぼくを元気にしてくれます。食べたたら、心までにっこりとなる気がします。そんなおこめが食べられなくなると思うと、ふあんで、心ぱいで、そしてとつてもさびしいです。

ぼくは、おこめが大すきです。これからは、もつともつと大じにかんしゃして食べます。今ぼくは、きゅう食とうばんのごはんがかりなので、みんなのおわんに、ふんわりていねいにごはんをついであげようと思います。